

# 国立大学法人宇都宮大学中期目標

平成28年3月1日提示

## （前文）大学の基本的な目標

宇都宮大学は「人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する」という理念の下で、栃木県の多様で豊かなフィールドを活かした実践的な教育・研究を基盤として、社会の中核を担う人材の育成と知の創造・発信を着実に重ねてきた。

今期は「活力ある持続可能な地域社会の形成」、「グローバル化社会への対応」、「イノベーション創出」を基本方針とおき、「行動的知性」を備え広く社会の発展に貢献する人材の育成、独創的な特色ある研究による新たな「知」の創造、地域やステークホルダーとの双方向性を高めた活動を積極的に進め、地域の知の拠点としての機能を一層強化する。

そのため、構成員相互の信頼と協働を重んじながら、組織や学生・教職員それぞれが、主体的に挑戦し（Challenge）、自らを変え（Change）、社会に貢献する（Contribution）という3C精神をモットーにして、躍動感溢れ進化を続ける大学を目指す。

## ◆ 中期目標期間及び教育研究組織

### 1 中期目標期間

中期目標の期間は、平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

### 2 教育研究組織

中期目標を達成するための基本組織として、別表1に記載する学部、研究科及び別表2に記載する教育関係共同利用拠点を置く。

## I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

### 1 教育に関する目標

#### （1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ① 地域の新しい複合的な課題を解決し、地域の持続的な発展を支えるために、学士課程を通じて、行動的知性と実践的専門性を兼ね備え、3C精神（Challenge、Change、Contribution）を持った創造的人材を育成する。
- ② 地域の「知」を創造し変革をリードするために、大学院課程を通じ、高度な専門的知識・技能を備えた実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。
- ③ 厳格な成績評価と卒業・修了判定を行うとともに、体系的学修評価システムを構築して学生の学修成果の把握と評価に基づいた教育の質保証を進める。

#### （2）教育の実施体制等に関する目標

- ① 多様で質の高い教育プログラムを提供するための柔軟かつ機動的な人員配置を行う。
- ② カリキュラムや教育方法の改善、教員の教育力向上を一体的に進め、教育の質改善サイクルを確立する。
- ③ 学長のリーダーシップの下、第2期で取り組んできたアクティブ・ラーニングの推進等の実績を踏まえ、戦略的に教育環境を充実する。

#### （3）学生への支援に関する目標

- ① 学生の多様なニーズに対応し、3C精神を醸成するために、学生の学修、就職活動、課外活動、社会的活動、日常生活など全般に亘って支援を行う。

#### （4）入学者選抜に関する目標

- ① 大学教育を通じて身に付けさせる資質・能力と求める学生像を明確にしたアドミッション・ポリシーを策定するとともに、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定し、意欲的で多様な学生を受け入れるための入学者選抜方法を導入し、その効果を検証する。

### 2 研究に関する目標

#### （1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ① 世界に通じる先端的研究の開発・推進、及び、基礎的研究を基盤とした地域イノベーション創出の知の拠点として、独創的で学際的、分野融合的な研究を発展させる。

- ② 地域や社会のニーズを把握し対応する知の拠点として、学術、文化、産業等の持続可能な発展に貢献する。

## **(2) 研究実施体制等に関する目標**

- ① 全学的な研究開発戦略を学長のリーダーシップの下で策定し、研究環境、研究支援体制を整備する。
- ② イノベーションの創出、発展に寄与する地域や社会のニーズと大学の有するシーズとのマッチングを的確に図れる研究支援体制を整備する。

## **3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標**

### **(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標**

- ① 地域から信頼される地域コミュニティの中核的存在 (Center of Community) として、地域社会と連携して全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。

### **(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標**

- ① 「地域に学び、地域に返す」をモットーに、地域における「知の拠点」として社会的ニーズに応え、地域社会の発展に貢献する。
- ② 高大連携実績を基盤として、次代の地域を担う、チャレンジ精神・協働力・科学的創造力を持った人材の育成に積極的に取り組む。

## **4 その他の目標**

### **(1) グローバル化に関する目標**

- ① 地域社会におけるグローバルな問題の構造を捉え、持続的な発展を支えるために、3C精神を持ったグローバルリーダーを育成する。

### **(2) 附属学校に関する目標**

- ① 地域の教育界との連携を強化し、学校における教育課題解決に資する教育研究活動を積極的に推進するとともに、その成果の還元に取り組む。
- ② 大学・学部との連携を強化し、教育実習の充実及び附属学校を活用した共同研究等を積極的に推進し、附属学校が本来求められている機能の充実を図る。
- ③ 地域の教育委員会との組織的な連携体制を構築し、県内の教員の交流・研修の場を積極的に提供する。

## **II 業務運営の改善及び効率化に関する目標**

### **1 組織運営の改善に関する目標**

- ① 組織運営の改善のため、ガバナンス機能の強化や人事・給与制度の弾力化を行う。その際、学内資源の再配分を戦略的に行う。
- ② 学外者の意見等を法人運営に適切に反映する。

### **2 教育研究組織の見直しに関する目標**

- ① 学長のリーダーシップの下で、第2期で取り組んできた業務及び組織見直しの実績を踏まえ、社会のニーズに的確に応じた組織改革を行う。

### **3 事務等の効率化・合理化に関する目標**

- ① 法人化後取り組んできた事務処理の効率化・合理化を更に推進し、そのための機動的な事務体制を再整備する。

## **III 財務内容の改善に関する目標**

### **1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標**

- ① 教育研究基盤等を強化、発展するため、外部研究資金等の獲得を促進しつつ、自己収入を確保する。

### **2 経費の抑制に関する目標**

- ① 健全な大学運営を維持するために経費の抑制とコスト削減を行う。

### **3 資産の運用管理の改善に関する目標**

- ① 資産及び資金の有効な運用を行う。

## **IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

## 1 評価の充実に関する目標

- ① 効率的な自己点検・評価及び厳正な外部評価を実施し、評価結果を大学諸活動の改善に活用する。
- ② 教員の職能発達を促進し、教育・研究力を向上させるために新教員評価制度を制定する。

## 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ① 社会に対する説明責任を果たすため、大学諸活動の情報を積極的に公開するとともに、大学の認知度向上を図るため、戦略的な広報活動を展開する。

## V その他業務運営に関する重要目標

### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ① 本学の改革の柱である地域の発展を支える地域活性化の中核的拠点としての機能強化を中心として施設整備、既存施設の有効活用を推進する。

### 2 安全管理に関する目標

- ① 全学的な安全管理体制の下、学生（児童等を含む）及び職員の安全を確保する。

### 3 法令遵守等に関する目標

- ① 第2期に業務方法書の改正によって再整備した内部統制のシステムを一層活用し、法令遵守の徹底を推進する。
- ② 研究活動における不正行為、研究費の不正使用に関し、本学の研究者等の行動規範、及び不正使用防止計画等に基づき、不正防止を徹底する。
- ③ 国際標準を基礎とした情報セキュリティマネジメントにより、情報セキュリティを推進する。

別表1（学部・研究科）

学部	地域デザイン科学部 国際学部 教育学部 工学部 農学部
研究科	国際学研究科（博士前期課程、博士後期課程） 教育学研究科（修士課程、専門職学位課程） 工学研究科（博士前期課程、博士後期課程） 農学研究科（修士課程） 【東京農工大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）の参加校である。】

別表2（教育関係共同利用拠点）

拠点名 (施設名)	食と生命と環境が有機的に融合した実践科学を学ぶ農学フィールド教育拠点(宇都宮大学農学部附属農場)
--------------	--